

今、教育委員は！

平成26年 7月
教育長 榎澤 晴樹

ご冥福をお祈り申し上げます

まず、ご家族との海水浴を楽しまれながら逝去されました佐久市立佐久城山小学校1年生の辰巳大翔君のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

自然の中で生かされている私たちですが、時としてその自然によって尊い命まで奪われてしまうことがあります。あの東日本大震災では、大地震による破壊だけでなく、地震のエネルギーが水の運動エネルギーや位置エネルギーとなって多くの人々の生命・財産を奪いました。今年5月の上越海岸での事故、最近の南木曾での土石流による事故、そして今回の海水浴中の事故……いずれも水がらみで人命が失われています。

命を育む水であり、目の前の一滴には力があることを感じさせない水ではありますが、その一滴一滴は長い年月を経れば岩をも穿つ力になり、また、小さな一滴が集まると、瞬時に自然の形を変えてしまうほどの巨大な力にもなる水であります。

大翔君のご冥福をお祈りし、ご家族のご心痛をお察し申し上げながら、改めて自然への「畏れ」を自覚するものでございます。

教育委員会の動き ～「挑戦、そこに人生」～

これは数学者 広中平祐氏が「青年の翼 ～若い日本人のための12章～」の著書の中で力説されているメッセージです。一節を紹介させていただきます。

「目標に向かって自分を駆りたてる熱く熱したものと、その行動に方向性と計画性を与える冷たくさめたもの。情熱と理性のブレンドがチャレンジである。……船にはスクリューと舵の両方が必要である。」

さて、5月 18 日に、前教育長の土屋盛夫先生から本職を引き継いでから2ヶ月余。この間に、小中学生をはじめ多くの市民の皆様の感動的な「挑戦」の姿に出会ってまいりました。老若男女を問わず、まさに「挑戦、そこに人生」という生き様に触れ、有難い刺激を頂戴しております。その一部(紙面の都合で3例のみ)を紹介します。

1 90歳を超える方の油絵への挑戦

5月下旬に遡って恐縮ですが、佐久美術展の「授与式」が行われました。私は、式に出席する前に佐久創造館に立ち寄って、展示されている作品の一点一点を久し振りにじっくりと鑑賞させていただきました。そこで、たまたま集団で来館された方々への解説場面に遭遇し、そっと拝聴いたしました。

「これは90歳を超える方の作品ですが、皆さん何をお感じになりますか。制作に立ち向かうエネルギーが若者をはるかに超えていると思うのですがいかがでしょうか。……」というもの。迫力のある作品にも、ご長寿にも拍手させていただきました。

2 中学生の海外研修への挑戦

「佐久市ふるさと創生人材育成事業」で、モンゴルとアメリカへの海外研修への参加者が公募され、

それぞれ8名ずつの中学生が最終抽選により決定されました。7月末に日本を発ち、8月6日に帰ってきます。

貴重な挑戦の背後には、お家の方や関係者の応援があるわけですが、異国の地で、異文化の中で、各自がホームステイしながら体験を通して学ぼうとするその挑戦に拍手を送りたいと思います。海外研修を通して、佐久市の中学生としての、また日本の中学生としての顔を自覚する若者が育っていくことでしょう。無事の帰国をお祈りいたします。



3 子ども議会への挑戦

7月31日には佐久市子ども議会が開催されます。各校を代表して小中学生24名が議場に立ちます。事前に届けられた質問を見させていただきましたが、子どもの視点からもっとこんな佐久市になってほしいという願いや提言があり、本当にうれしく、また頼もしく思いました。

佐久市の未来に係る自分(自分たち)の気づきや願い、アイデアを模擬議会で発信するという貴重で意義深い挑戦であります。それぞれの声が発せられるのを楽しみにしております。大事に考えさせていただきます。